



先行き景気は持ち直しへ

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 塚田 雄太

E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

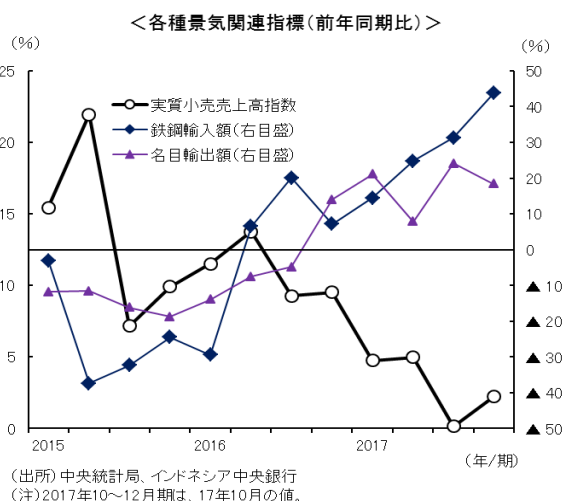
■消費は弱含みも、投資、輸出が下支え

足元のインドネシア景気は、底堅く推移している。けん引役は投資と輸出である。

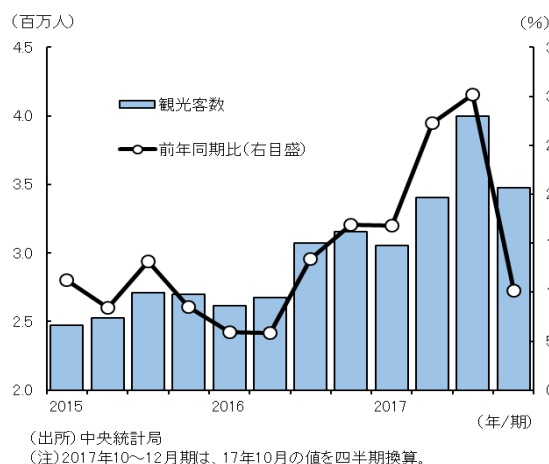
10～12月期の総固定資本形成は、政府によるインフラ整備の進展等を背景に、伸びを加速させている可能性が高い。インドネシアは、鉄鋼等基幹産業の育成が遅れているため、インフラ整備に際してその多くを輸入しているが、2017年10月の鉄鋼のドル建て輸入額は前年同月比+43.8%と7～9月期（前年同月比+31.3%）から一段と増勢を強めている（右上図）。

また、輸出も堅調である。先進国等主要輸出先の景気回復を受け、2017年10月のドル建て輸出は前年同月比+18.4%と高い伸びを維持している。

一方、実質GDPの55%を占める民間消費は弱い動きとなっている。2017年10月の実質小売売上高指数は前年同月比+2.2%と、7～9月期（前年同月比+0.1%）から持ち直したとはいえ、低い伸びにとどまっている。これは、2017年の最低賃金上昇率が7年ぶりの低水準となったことに加え、夏場にかけてのインフレ率の上昇による消費者の購買力低下やマインドの悪化が尾を引いている模様である。



<観光客数>



■バリ島火山噴火による悪影響長期化に注意

2018年前半は、内需がけん引役となり、景気は持ち直しの動きを強めると予想される。輸出は、世界景気の持ち直しが下支えするものの、2017年入り後の高い伸びの反動から、増勢鈍化が見込まれる。その一方で、インフレ率の上昇が抑えられるなかで民間消費が持ち直すほか、インフラ整備が加速することで総固定資本形成も堅調に推移すると予想される。

なお、先行きの景気を下振れさせかねないリスクとして、バリ島で2017年9月中旬以降、アグン山の火山活動が活発化していることには注意が必要である。11月末には、噴火によりテンパザール空港が3日間に渡って閉鎖された。このため、2017年10～12月期の観光客数の伸びは大きく減速した可能性が高い（右下図）。観光収入等が反映されるサービス輸出は実質GDPの2%程度のため、当面、経済全体への影響は限定的であるとみられるが、火山活動が一段と活発化すれば、悪影響が広範囲に拡大する恐れもあるだけに、状況を注視しておく必要がある。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。